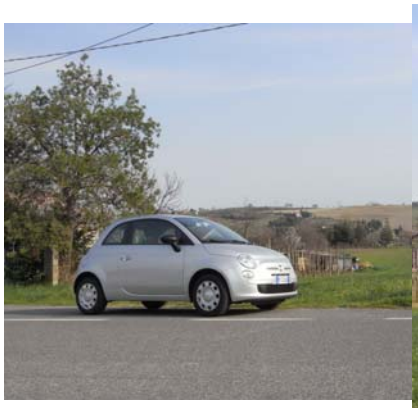
● ムゼオ モト・グッツィ訪問記　　— 来たぜ！マンデロ編 —

▼実は、マラネロのムゼオ・フェラーリにも来ましたが、去年来たし、時間が無かったのショップでお買い物だけ。
このセグウェイが欲しー！！！

▲　店員さんに聞いたら、ここでは写真 OK でしたので、撮りましたが、ショップでは本来は撮るべきでなかったと、反省しました。ムゼオはフラッシュ無しなら大丈夫でしたが。

▼前から興味あったサンマリノ共和国を目指し、リミニから流れの良いイタリア版広域農道を快適ドライブ。
マンデロはまだかって？メインディッシュは後でゆっくりと（笑）。



▼すると何か、ブドウ畑のど真ん中に怪しい施設が…、当然、入ってみます。

★なんか、やたら旧ソ連の軍用機が展示された公園（と看板に書いてあった）で、おっさんが一人で管理していました。
入場料 8 ユーロ（高っ！）でしたが、地元の家族が結構おり、週末の家族団らんの隠れたスポットみたいです。
おっさんの熱のこもった説明が印象的（こっちはわからんが）。
出るときに、なんやら話しかけてきて、日本人だから分からんと言うと、「何、日本人は初めてだ！（そりゃそうだ）、是非記名してくれ。」と、ビジターノートに記名をさせられました。

▲丘陵地帯のブドウ畑の真ん中のシュールな光景、機会が有れば皆様もぜひ（笑）！

★　個人のコレクションにしては立派すぎですが、公立でもなさそうです。館内の過去のイベント報告（！）には、
退役軍人のパーティーらしき写真もあり、さてはイタリア軍の天下り組織か？（笑）

★本当の目的地はここ、サンマリノ共和国です。

★　小山の上の小さな城がシンボルですが、往復 4.5 ユーロの
ロープウェイで登ってみると、意外に広いのです。
天然の岩山の上に目いっぱい城と修道院を作っており、
城壁から除くと絶壁、いまにも崩れそうです。

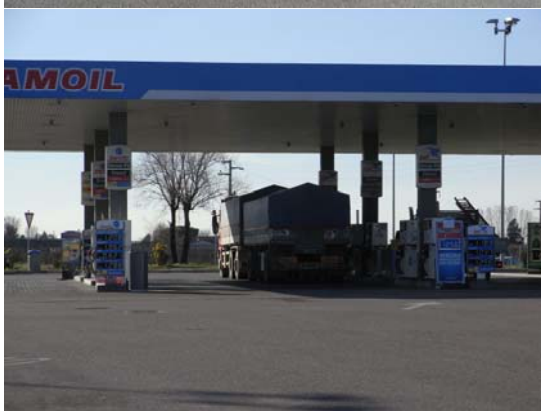
※10 年後は崩れてないかもよ？今の内に行くべし。

※てっぺんの城に入るのに、更に3ユーロ（商売上手！）
途中は土産物屋が密集し、日本の観光地と同様です。
変な日本刀や手裏剣が売っているのも、ご愛嬌。

▲ 古い岸壁に、ライトアップ用のハロゲン灯を固定してましたが、電球の交換はどうすんの？
というよりも落ちたらどうすんの？こんな古い岩で大丈夫？サン・マリノ訪問の際は、上方にご注意を。

▼ この像の人が、どうやらこんな酔狂な場所に居を構えた張本人らしいのですが、中世に、どうやってこんな岩山の上に城を作ったのでしょうか？

▼一方、リミニ北方のラヴェンナ近くのアドリア海のビーチです。
たっぷり観光したし、そろそろミラノへ行きますか？



▼ガソリンは、自分でも出来るし、係りの人にもやってもらえます。
但し、それぞれ専用のコーナーがあるので注意。
尚、ガソリン供給が一定量で自動停止しますが、あわてず、
再度トリガーを引けば OK です。給油後に事務所で清算です。
＊ガソリンは緑のノズルだったのですが、油種は要確認です。

▼さて、いよいよミラノ経由でマンデロへ。旅も佳境です。
ラヴェンナーミラノ間の高速でバイクに抜かれます。
おやっ、これは？わかりますか？

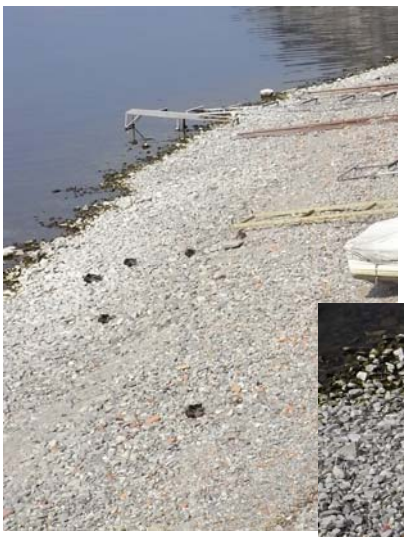
※バイクは日本より多いし、色々なメーカーの多種多様なモデルが見受けられて楽しいですね。
⇒さて、いよいよモト・グッツィ工場です！！

▼ ミラノからはナビのおかげで難なく到着、すると、この狭い入り口から大きなトラックが出てきたり、人や車両の出入りは活発です。入口には、下の張り紙が。博物館は月―金の 15:00～16:00 のみ開館です。
よかった、やってた！でも早く来過ぎた！

そこで、車で 15 分ほどのフェリー乗り場で時間つぶし、湖の周りで優雅な時間をまったりと過ごす至福の時。

★おまけ ； 生きもの地球紀行＝「コモ湖」編

湖沿いの傾斜地に、小さな村落があり、ボート繋留用の人口の入り江に、鴨が群れています。
何故か？下の白い筋わかりますか？みな小魚（稚魚？）です。
静かな湖ですが、餌となる魚は豊富の様です。



★岸では、鴨が日光浴（地上でもV字編隊崩しませんね）

▲いつでも夫婦一緒の様です。

▲動物は、オスが派手ですね。

▼　さあ、いよいよ時間です。入口の横には、本社工場設備の再整備についての告知ボードがありました。
二輪雑誌の記事でこの工場の動向が色々と取沙汰されており、イタリアでも、新聞や雑誌の記事に取り上げられる程、世間の関心が強い様です。現在は、博物館設備の拡張と、生産施設の規模縮小が計画されている様です。ピアッジオ・グループ全体で生産の合理化を図っているので、将来はマンデロ以外で製造されたモデルが市場に出るのでしょうか？

▼特に、専用入口もなく、きょろきょろしていると、格子越しに守衛さんが見ていて、少しだけ門扉を開けてくれたので、そこから入りました。すぐに、記帳をさせられ、なにやら仕事で顧客の工場を訪問する時の様です。
入れ違いにステルビオがテストランに。そして、遂に感動のミュージアム入口ですが、以前と何も変わっていません。

※入場は無料でした。

▲入ってすぐ奥には、コッパ・イタリア、その前方に、階段があり、いよいよ2階へ。
※入口すぐ左に、グッズショップが、でもここは最後のお楽しみに。

▼　2階に上がると、先客が居て、おじさんが解説していました。社員の持ちまわりか、それともOBがボランティアでやっているのか、このおじさんは、閉館時間になると、V7 クラシックに乗ってさっさと走り去って行きました。
来場者は、10 名程で若いカップルもいました。火曜日の夕方、この辺鄙な場所にしては多いのかな？

▲　右上は、最初の試作車G. P.（グッツィ＆パローディ）で、この完成度の高さにより、出資者獲得に成功して、会社が始められた、記念すべき車両です。なんと 1919 年製造！ちなみに、モト・グッツィ社創立は 1921 年 3 月ですね。

▼2階の後ろを振り返ると、最近のモデルが、
3階に上がってここに戻って来る構造です。

▼この様な細長いレイアウトの左右に歴代モデルがほぼ年代順に
並んでいます。熱中しすぎると時間が足りません。

▼初代ノルジェGT

▼第二次大戦前後の時期に製造された軍用バイク「アルチェ」の雪上用試作車

▼この階の最後は、風洞実験トンネルの模型

★窓からスパイショット！

▼トイレの横に3階への階段が

▼3階へ…ん？誰か人影が？

▼上がってみると、こ、これは？

★おおっ、これこそは、我らが、「オモボノ・テンニ」その人の像ではありませんか！！！

※威厳のある顔つき、皆様になり代わり
拝んでおきました（笑）。

★数多のモト・グッツィのファクトリーレ-シングライダー達の中で、
彼だけが、特別にコーナーがあり、像が設置されていました。
※創業者の像もないのにね。

▼ちなみに、これが創業者の「カルロ・グッツィ」の執務机です。

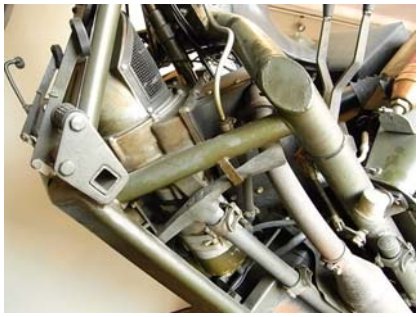
▼テンニの横から、3階の展示室へ。
ここは戦後型のレーサーモデルの展示から始まります。

▼V11テンニの車体色のモデルとなった、
1950 年代のレーサー共通の塗装です。

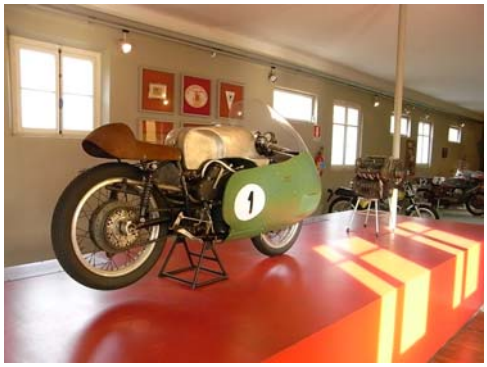
▼1990 年代末までのモデルで3階終了、再び2階へ。

▼謎の3輪バギーが！エンジンは単気筒？

▼　2階へ戻ると、軍用3輪車が。以前は、こいつがVツインエンジンの元祖と言う説が流布されていましたが、
どう見ても、作りが全く違います。空冷Vツイン＋シャフトドライブという構成が誤解を生んだのでしょうか？

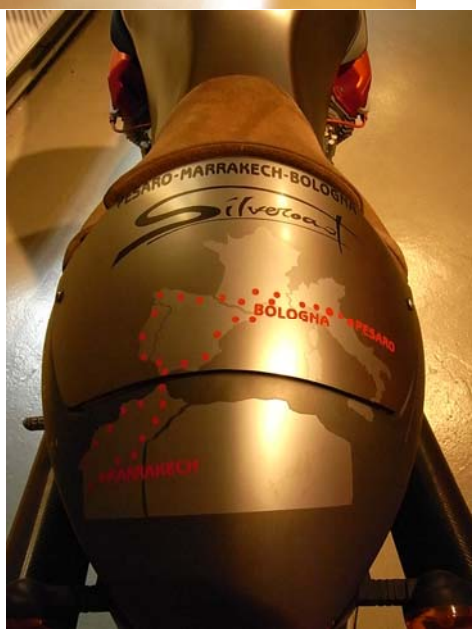


▼2階の後半は、簡素な展示、しかし、有名かつ重要なオットーチリンドリ（液冷V8　500ccエンジン搭載）があります！



※V11テンニのイメージソースというのが分かりますね。

▼さて、もう終わりかと思って出口に向かうと、おや…？



★さすが、V11テンニは目立ってます！
2002 年に北アフリカ周遊を行った
イベント車両ですね。
以前のグッツィのプロモーションビデオに
出演していましたね。

テールカウルに、ルートが記載されています。▲

▼ 最後は、2005 年のブレヴァV1100以降の新世代OHVエンジンと片持式スイングアームシステム Ca.R.C.(カルク)と、80 周年記念モデル第一弾！V11ロッソ・マンデロ(テンニより発売が先)と 2002 年型ネヴァダ・クラブで終了です。手狭な為か、グリーゾなどの展示はありませんでした。確かに、拡張した方がいいですね。

▼ で、お楽しみのショッピング。日本未導入のアパレルが、安い！グッツィのアパレルは、普段着用のセンスが良いので、たくさん買い込みました。カード使えるしね。

店番のおばちゃんは、イタリア語しか出来ない様子でした。一人のお客様に、じっくりと応対する(これが、イタリアの流儀の様です)為に、接客に時間がかかります。そこで、他の客が全員帰るまで待ち、最後に残ってじっくりとお買い物をしました。1ユーロ＝130 円切っていたので、安く感じてツイツイ買い過ぎてしまいました。

▲出口にあった、雑誌記事の切り抜き。何か、向こうのタレントがパパラッチされた際に、グッツィのアパレルを着ていた模様。
俳優のユアン・マクレガーが、グリーゾを所有しているのは、向こうでは有名みたい。

▼時間になり、退散しますが、記念に最寄の駅で記念撮影、無人駅です。

★今回は、改装後の初めての日本人の訪問と思います。
改装と言っても、展示車両の補修に力が注がれた様で、以前の訪問に比べて、何台か、外装がきれいになっておりました。

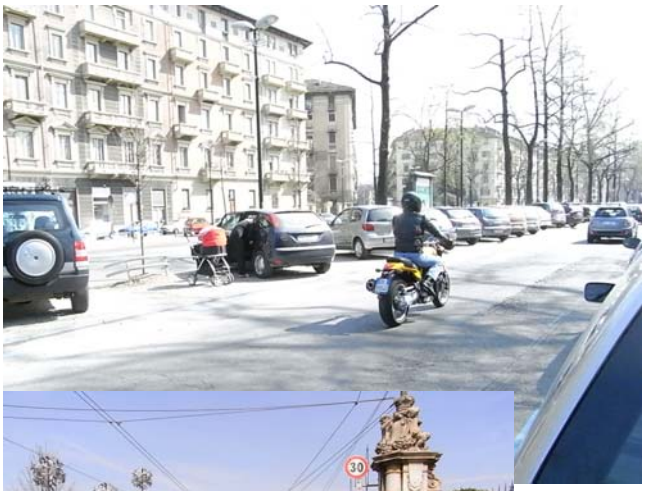
★で、今回感じたのは、やはり手狭な事ですね。早く計画を勧めて敷地と設備を拡大して、もっと長時間そして、週末の営業も行って欲しいですね。
1時間では見切れません。今の施設は趣があって良いのですが。

★最後に ； 駄文に長らくお付き合い下さり、ありがとうございました！！

どうでしょうか？ご参考になったでしょうか？是非一度ムゼオ モト・グッツィを訪問して見て下さい。
このサイトをご覧の方なら楽しめると思います。

●やっぱ海外行くならヨーロッパ、特にイタリアは楽しいです。ユーロが安いうちに是非！

▼トリノの街中で、グリーゾ発見！今回一番多く見かけたグッツィ製車両です。



▼なんと！無印良品がトリノにあった。

▼トリノ王宮前広場の横を、突っ走るトラム（路面電車）

▲特に、縦列駐車の多い街中では最高！

★ 500は、ミラノからアドリア海まで約 2,000Km 以上を快適に走破！
やや非力なれど、運転が楽しい車でした。

★快適な旅だった一番の理由は、まあトムトム君のおかげかな？

◆ 終わり ◆